



パッテロー通信



《学校の教育目標》 心豊かでたくましい実践力をもつ子

No.25

令和2年 1月 7日

だからこそ寛容な心を育てたい

校長 加藤 辰司

新年、あけましておめでとうございます。昨年は和知小学校の教育活動に様々なご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年も職員一同、和知小学校の子供たちの成長のために一生懸命取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この冬休み、子どもたちと一緒にそれぞれの家族できっと楽しい家族団らんのひと時を過ごされたことと思います。中には年をまたいで初詣をして、除夜の鐘をついた家庭もあったのではないのでしょうか。

さて除夜の鐘といえば、昨年末に除夜の鐘をめぐる様々な議論が、メディアやインターネットの世界でなされました。それは、除夜の鐘の音がうるさいという近所の人からの苦情によって、時間を昼間に変更して実施したり、あるいは取りやめたりしているところが相次いでいるというものです。ただ実際にこういった動きは、昨年急に始まったわけではなく、既に10年ほど前から起こってはいました。これを大都市ならではの出来事だからと対岸の火事としてとらえてはられない時代が、すでに来ているのかもしれない。

この除夜の鐘騒動に限らず、これまで許されていたことが、少しずつ許されなくなってきているのを感じるのは私だけではないのではないのでしょうか。その傾向は、いわゆるネット社会が急速に発達したことによってより顕著になり、今後さらにその傾向が強まっていくであろうことは容易に予想できます。つまり最近になって言われるようになった「不寛容な社会」がますます広がっていきつつあるということなのです。

年始早々、少し重苦しい話題となってしまいましたが、だからこそ和知小学校では、これからそういった社会を生き抜いていかなければならない子供たちに、今年も次のような力をつけていきたいと考えています。

その一つは、**互いの思いを伝えあうことができるコミュニケーション力**です。お互いが不寛容になってきたのは、自己主張する力が強くなってきた結果であるとも言えますが、それは時として強い側からの一方通行になりやすい傾向があります。と同時に相手の言葉を受け入れる力やお互いの意見を交流して意思の疎通を図るコミュニケーション力が不足してきているからでもあります。ですからコミュニケーション力をつけ、コミュニケーションをより深くできるようにすることで、お互いの思いを受け入れ合うことを増やしていけるようにしていきたいと考えています。

もう一つは、**これまで一貫してお話してきた和知小学校で大切にしている「パッテロースピリッツ」を様々な場面で発揮できるようにする力**です。相手の笑顔を見ることを自らの喜びとする思いは、相手のためにという思いやりの心、寛容の心を育てることであります。

これらの力をつけるために、学校では子供たち同士の関わり合いを大切に活動に今年も全職員で取り組んでいきます。保護者そして地域の皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

謹賀新年

